

SOPHOS

Cybersecurity
made
simple.

Sophos Migration Tool

アドバンスガイド

目次

| | |
|---------------------------------------------------------|----|
| このガイドについて..... | 1 |
| 移行前に行うリモートのアップデートマネージャの準備..... | 2 |
| 移行前に行うリモートデータベースの準備..... | 5 |
| Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのインストール..... | 5 |
| Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのアンインストール..... | 6 |
| 多数のコンピュータの移行..... | 7 |
| サブ管理サイトの移行..... | 8 |
| 複数の Sophos Central アカウントまたは管理サイトへの移行..... | 9 |
| 新しいアカウントに移行する前に行うクリーンアップ..... | 10 |
| 補足: Sophos Migration Agent..... | 12 |
| サポートへのお問い合わせ..... | 15 |
| 利用条件..... | 16 |

1 このガイドについて

このガイドでは、次のいずれかに該当する場合の Sophos Central Migration Tool の使用方法について説明します。

- リモートの Sophos Update Manager がある。
- リモートの Sophos データベースがある。
- 多数のコンピュータを移行する必要がある。
- サブ管理サイトごとに移行を行う必要がある。
- 複数の Sophos Central アカウントに移行する必要がある。

移行ツールの基本的なセットアップと使用方法については、[Sophos Central Migration Tool ヘルプ](#)を参照してください。

関連情報

[Sophos Central Migration Tool ヘルプ](#)

2 移行前に行うリモートのアップデートマネージャの準備

環境に「リモート」アップデートマネージャ (Sophos Enterprise Console 管理サーバーと同じサーバーにないアップデートマネージャ) が存在する場合があります。

Sophos Central Migration Tool を使用してこのようリモート アップデートマネージャを移行するには、まず手動で設定してから移行操作を開始してください。

アップデートマネージャの設定が必要な理由とは？

コンピュータを移行するには、「移行パッケージ」が必要です。パッケージには、インストーラ、および各移行に必要な情報が含まれています。

Sophos Central Migration Tool は、(最初の移行を開始直後に) インストール先のサーバーに、アップデートマネージャ用のパッケージを自動的に作成します。パッケージは、次のフォルダに格納されます: ¥SophosUpdate¥CloudMigrationPackage

また、以後、コンピュータを選択して移行するたびにパッケージは更新されます。



ただし、Sophos Central Migration Tool は、他のサーバー上のアップデートマネージャに対しては、この処理を自動的に行いません。そのためには、Sophos Migration Agent というツールを実行する必要があります。



アップデートマネージャの設定

アップデートマネージャを設定する方法は次のとおりです。

1. Sophos Central Migration Tool をインストール後、コンピュータ (リモート Update Manager からアップデートするコンピュータを含む) を選択し、「**Migrate**」(移行) をクリックします。
Sophos Central Migration Tool に、「1つまたは複数のアップデートマネージャがコンピュータへ移行することができません」というメッセージが表示されます。
2. メッセージをクリックします。これにより、ローカルのものを含んだすべてのアップデートマネージャの状態を確認できます。(また、「**View > Update Manager Status**」(表示 - アップデートマネージャの状態) を選択することでこれを確認することもできます。)

「Not Ready」(準備ができていません) (スパナアイコン) または「Out of Date」(期限切れ) (砂時計アイコン) の状態のアップデートマネージャがある時は、そのアップデートマネージャがインストールされているサーバーへ移動し、次の手順に従って Sophos Migration Agent を実行してください。

| アイコン | 状態 | 説明 |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------|
|  | Ready (準備完了) | アップデートマネージャはコンピュータを移行できます。 |
|  | Not ready (fixable) (準備ができていません (修正可能)) | アップデートマネージャは Sophos Migration Agent を実行するまでコンピュータを移行できません。 |

| アイコン | 状態 | 説明 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------|
|  | Out of date (期限切れ) | アップデートマネージャに、期限切れの移行パッケージがあります。新しく選択したコンピュータを移行できません。 |
|  | Error (エラー) | 移行パッケージの作成または更新で問題が発生したため、アップデートマネージャはコンピュータを移行できません。 |

3. リモートのアップデートマネージャのあるサーバー上で、Sophos Migration Agent を以下のとおりに実行してください。

- コマンドプロンプトを開きます。ユーザーアカウント制御 (UAC) がオンの場合は、「**管理者として実行**」のオプションを使用します。
- "%programfiles(x86)%¥Sophos¥Migration Agent" (64ビット)、または "%programfiles¥¥Sophos¥MigrationAgent" (32ビット) に変更します。
- SophosMigrationAgent.exe を検索します
- エージェントがパッケージを取得する場所へのパス (UNC またはローカル) に対して -p パラメータのある Sophos Migration Agent を実行します。たとえば、パッケージがデフォルトの場所にある場合は、次のようになります。

```
SophosMigrationAgent.exe -p "¥¥MySecServer¥SophosUpdate
¥CloudMigrationPackage"
```

注

UNC パスへのアクセスが制限されている場合は、Sophos Migration Agent パッケージをデフォルトのフォルダから取得することはできません。CloudMigrationPackage の内容をリモートのアップデートマネージャにある新しいフォルダへコピーし、新しいローカルパスで -p を使用します。

4. 移行ツールに戻ります。しばらくすると (通常は 10分以内) アップデートマネージャの状態が「**Ready**」(準備完了) に変わります。これをアップデート元とするコンピュータの移行を開始できます。

注

ダイアログに表示されている SUM (Sophos Update Manager) は自動的に更新されません。アップデート状態を確認するには、いったん閉じてから開く必要があります。ダイアログを開くことができない場合は、すべての SUM の準備が完了していることを意味します。

数回に分けてコンピュータを移行する場合は、定期的にてパッケージの更新を実行できるよう Sophos Migration Agent をスケジュール設定されることを推奨します。

移行パッケージの更新のスケジュール設定

新しい移行が開始されるたびに、リモートのアップデートマネージャにあるパッケージは期限切れとなり、新しく選択されたコンピュータを移行できなくなります。

移行パッケージを最新の状態に保つには、リモートのアップデートマネージャにある Windows のスケジュールタスクを設定することを推奨します。

15~30分ごとにタスクが実行されるように設定します。「**Pending**」(保留中)のコンピュータは、デフォルトで 2 時間後にタイムアウトするので、このスケジュールタスクは、常にコンピュータがタイムアウトする前に移行パッケージが更新されるようにします。

パッケージのソースを信頼できる場合は、偽装権限のある管理者アカウントでタスクが実行されるように設定します。「最高の権限で実行」を選択します。

パッケージのソースが信頼されていない場合、または、厳格なセキュリティポリシーに従う必要がある場合は、次の 2 つのタスクをスケジュール設定することを推奨します。

- 1 つのタスクは非特権アカウントで実行され、移行パッケージをネットワークからローカルフォルダへコピーします。
- 1 つのタスクは、Sophos Migration Agent を実行し、ローカルフォルダがパッケージソースとして使用されます。

パッケージをコピーするタスクは Sophos Migration Agent タスクが開始する前に完了する必要があります。

注

すべてのコンピュータを移行したら、スケジュールされたタスクを削除します。

関連概念

補足: [Sophos Migration Agent](#) (p. 12)

3 移行前に行うリモートデータベースの準備

Sophos Enterprise Console のインストールがリモートの Sophos を使用している場合、Sophos Central Migration Tool インストーラは自動的にデータベースを検索および使用することはできません。

移行ツールをインストールする前に、リモートの Sophos データベースにデータベーススキーマをインストールする必要があります。

注

移行が完了し、Sophos Central Migration Tool をアンインストールしたら、Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのアンインストールの手順に従ってください。

関連タスク

[Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのインストール \(p. 5\)](#)

[Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのアンインストール \(p. 6\)](#)

3.1 Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのインストール

リモートの Sophos データベースに Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Sophos Enterprise Console 管理サーバーで、Sophos Central Migration Tool 自己解凍型圧縮ファイル `scmt_sfx.exe` を実行します。
2. Sophos Enterprise Console 管理サーバーがリモートデータベースを使用している場合、インストーラはデータベースに接続できず、セットアップログを参照するように求められます。
3. `C:\¥Windows¥TEMP` で、ログファイル `scmt-setup.log` を開きます。次のようなエントリが表示されます。

```
<timestamp> -- Processing string segment: Initial Catalog=SOPHOS551
<timestamp> -- Processing string segment: Data Source=
SqlServerHost¥SOPHOS
<timestamp> -- Remote database found
<timestamp> -- Database exception: Invalid object name
'CloudMigration.CloudMigrationDataStore'.
<timestamp> -- Unable to connect to the remote migration tool database.
Exiting...
<timestamp> -- -- BOOTSTRAPPER ENDED --
```

データソース (またはサーバー) と初期カタログ (またはデータベース) の値をメモします。これらはリモート SQL のインスタンス名と Sophos Enterprise Console のデータベース名を参照し、Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマをインストールまたはアンインストールする際に使用されます。

4. リモート データベース サーバーへ `scmt_210` フォルダをコピーします。

5. リモート データベース サーバーで、コマンドプロンプトを開き、解凍されたインストーラコンテンツに対するフォルダ `C:\%scmt_210\resources\DBScripts` に移動します。

注

ログオンしたアカウントに Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマを Sophos Enterprise Console 内に作成する十分な権限がない場合は、「別のユーザーとして実行」のオプションでコマンドプロンプトを開き、十分な権限のあるアカウントを指定します。

6. 手順 3 で取得したデータソース (またはサーバー) と初期カタログ (またはデータベース) の値を使用して、データベースのインストールスクリプトを実行します。例: `InstallDbCloudMigration SqlServerHost\SOPHOS SOPHOS551`

インストールに失敗すると、メッセージが表示されます。スクリプトを実行したフォルダにあるログファイル `InstallDbCloudMigration.log` を確認します。

7. スキーマをインストールしたら、Sophos Enterprise Console 管理サーバーへ戻り、`c:\%scmt_210\setup.exe` を実行して、Sophos Central Migration Tool をインストールします。

3.2 Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのアンインストール

リモートデータベースのある Sophos Enterprise Console サーバーから Sophos Central Migration Tool をアンインストールしたら、以下の手順で Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマを手動でアンインストールする必要があります。

1. コマンドプロンプトを開き、解凍されたインストーラコンテンツのフォルダ `c:\%scmt_210\resources\DBScripts` へ移動します。

注

注: ログオンしているアカウントが Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマを Sophos Enterprise Console データベースから削除するための十分な権限がない場合、「別のユーザーとして実行する」オプションを指定してコマンドプロンプトを開き、十分な権限のあるアカウントを指定します。

2. Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマを設定した際に使用した「データソース」(または「サーバー」) と「初期カタログ」(または「データベース」) を使用して、データベースのインストールスクリプトを実行します (Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのインストールの手順 3 を参照)。例: `UninstallDbCloudMigration SqlServerHost\SOPHOS SOPHOS551`

関連タスク

[Sophos Central Migration Tool のデータベーススキーマのインストール \(p. 5\)](#)

4 多数のコンピュータの移行

多数のコンピュータを使用している場合は、ネットワークの帯域幅使用率が高くなるように移行を計画してください。

以下の理由から、移行により帯域幅の使用率が増加します。

- 移行する際に、すべてのコンピュータに新しい Sophos Central エージェントがダウンロードされ、インストールが行われます。
- 移行後、ソフォスからコンピュータに直接アップデートが送信されます (デフォルト設定)。

コンピュータを一括して移行し、Sophos Central で「アップデートキャッシュ」を設定することを推奨します (以下を参照)。

コンピュータの一括移行

Sophos Central Migration Tool は、最大 5000 台のコンピュータを管理する Sophos Enterprise Console のインスタンスの評価と移行をサポートします。

ただし、使用する帯域幅を削減するには、選択するコンピュータの数を制限し、各移行タスクに含めることを検討してください。

アップデートキャッシュの設定

移行後は、以前のようにローカルにあるアップデート場所 (または CID) からではなく、デフォルトで、Sophos からコンピュータに直接アップデートが配布されます。

これを回避するには、Sophos Central にあるアップデートキャッシュを設定します。

アップデートキャッシュにより、Sophos から直接更新を取得するのではなく、社内ネットワークにあるサーバーのキャッシュから Sophos Central のアップデートをコンピュータに取り込むことができるようになります。これにより、アップデート版のダウンロードは、サーバーが実行する一度のみになるため、使用する帯域幅が節約されます。

コンピュータは、最も近い利用可能なキャッシュから自動的にアップデートされます。

Sophos Central で、「**設定 > アップデートキャッシュとメッセージリレーの管理**」へ移動します。

5 サブ管理サイトの移行

サブ管理サイトごとにコンピュータを移行できます。

注

Sophos Enterprise Console では、サブ管理サイトとは、コンピュータやグループのサブセットを含む特定の IT 資産を指します。

各サブ管理サイトを個別に移行することで、誤ってコンピュータを移行する事態を回避できます。

デフォルトで、Sophos Central Migration Tool はデフォルトサブ管理サイトにあるすべてのコンピュータを表示します。サブ管理サイトを選択するには以下の手順で行ってください。

1. 移行ツール内で、「**View > Select a Sub-Estate**」(表示 - サブ管理サイトの選択) を選択します。
2. ドロップダウンリストからサブ管理サイトを選択します。
コンピュータリストには、サブ管理サイト内のコンピュータのみが表示されるようになります。タイトルバーには、サブ管理サイト名も表示されます。
3. コンピュータを通常通りに選択し、移行します。

注

Sophos Central Migration Tool を再起動すると、この設定は保持されません。コンピュータリストはすべてのコンピュータを再び表示するようになります。

6 複数の Sophos Central アカウントまたは管理サイトへの移行

単一の Sophos Enterprise Console サーバーで管理されているコンピュータを複数の Sophos Central アカウントに移行できます。

これを行うには、各アカウントにそれぞれアクセスし、コンピュータをそのアカウントに移行する必要があります。

また、同じ Sophos Central アカウントに複数のサブ管理サイトが関連付けられている場合も、ここにある手順に従う必要があります。

移行するには、次の手順を実行します。

1. 移行ツールで、使用する最初の Sophos Central アカウントに接続し、コンピュータを移行します。

注

この Sophos Central アカウントを使用して管理するコンピュータすべてを移行してから、他のアカウントに移行することを推奨します。このアカウントを使用する設定に簡単に切り替えることはできません。

2. 「**Migrating**」(移行中) または 「**Pending**」(保留中) の状態のコンピュータがないことを確認します (「**Migrating**」(移行中) でフィルタリング表示して何も表示されないことを確認します)。

この手順をスキップすると、新しいアカウントで Sophos Central Migration Tool にサインインしたときに、誤った情報が表示されてしまいます。

3. リモートのアップデートマネージャ (SUM) で Sophos Migration Agent を実行するスケジューラタスクを作成済みの場合は、そのタスクをオフにします。
4. 次のようにして、Sophos Central Migration Tool に別の Sophos Central アカウントへのアクセス権を付与します。
 - a) Sophos Central Migration Tool を再実行します。
 - b) 「**Connect to Sophos Central**」(Sophos Central に接続) ダイアログで、パスワードフィールドの下にある 「**Set up a new one**」(新しく設定) をクリックします。Sophos Central にサインインし、API トークンを作成し、パスワードを設定する必要があります。
5. メッセージが表示されたら、新しいパスワードを入力します。
6. Sophos Central Migration Tool は、新しいアカウントが使用されていることを検出します。

このツールは、ローカルのデフォルトのアップデートマネージャの共有にある「移行パッケージ」など、以前のアカウントで使用されたファイルのクリーンアップを試みます。失敗した場合は、手動でクリーンアップするようメッセージが表示されます。詳細は、新しいアカウントに移行する前に行うクリーンアップを参照してください。

注

新しいアカウントにあるライセンスされた機能数が古いアカウントでの数よりも少ない場合は、以前は「Ready」(準備完了) と表示されていたコンピュータは「Not Ready」(準備ができていません) と表示され、修正が必要になることがあります。

7. リモートのアップデートマネージャに配布済みの移行パッケージは、手動で削除する必要があります。詳細は、新しいアカウントに移行する前に行うクリーンアップにある手順に従ってください。

手動で他のフォルダまたは共有にコピーしたパッケージは、該当する場所から削除してください。

8. 移行ツールで、コンピュータを評価し、新しい Sophos Central アカウントに移行します。
9. リモートのアップデートマネージャ (SUM) で Sophos Migration Agent を実行するようスケジュールタスクを作成済みの場合は、そのタスクをオンにします。

以前に使用した Sophos Central アカウントのトークンを削除することを推奨します。Sophos Central で、「設定 > API トークンの管理」からトークンを選択し、「削除」をクリックします。

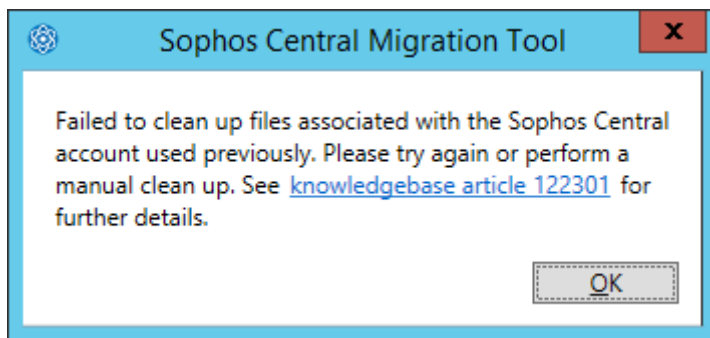
関連タスク

[新しいアカウントに移行する前に行うクリーンアップ](#) (p. 10)

6.1 新しいアカウントに移行する前に行うクリーンアップ

1つの Sophos Central アカウントへの移行が完了すると、別のアカウントへの移行が開始される前に、移行ツールは、古い「移行パッケージ」ファイルのクリーンアップを試みます。

クリーンアップが自動的に行われない場合は、次のメッセージが表示されます。手動によるクリーンアップが必要です。



注

リモートのアップデートマネージャに移行パッケージを配布済みの場合も、手動でクリーンアップする必要があります。

クリーンアップを行うには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを開きます。
2. コンピュータの MigrationAgent ディレクトリに移動します。
 - 32ビット: C:\Program Files\Sophos\MigrationAgent
 - 64ビット: C:\Program Files (x86)\Sophos\MigrationAgent
3. 次のコマンドを実行して、クリーンアップを試みます。
SophosMigrationAgent.exe -action cleanup -t file
4. ファイルエクスプローラで C:\ProgramData\Sophos\MigrationAgent\Logs に移動し、MigrationAgent.log を開きます。

5. ログの下部を参照して、クリーンアップを実行したときに何が起きたかを確認します。次のようなエントリが表示されます。

```
=====  
Migration Agent started =====  
Invoked with: -action cleanup -t file
```

6. CID ディレクトリからパッケージを削除する際に発生したエラーを確認します。次に例を示します。

```
ERROR Failed to remove C:\ProgramData\Sophos\Update Manager\Update  
Manager\CIDs\S002\SAVSCFXP\savxp\sav.cfg
```

7. 各 CID ディレクトリに移動し、エラーメッセージに記載されているファイルを削除します。記載されるファイルは次のいずれかです。
 - cmanifest.dat
 - migration.csv
 - SophosInstall.exe
 - RunCloudInstaller.bat
 - sav.cfg
8. 変更を保存するには、エラーメッセージに記載されている CID で、ソフォスの設定ツール ConfigCID.exe を実行します。詳細は、ConfigCID.exe を使用して XML 環境設定ファイルを作成する手順を参照してください。

関連情報

[ConfigCID.exe を使用して XML 環境設定ファイルを作成する手順](#)

7 補足: Sophos Migration Agent

Sophos Migration Agent は、Sophos Enterprise Console で管理されているコンピュータが使用する更新場所に移行パッケージを配布するためのコマンドライン ツールです。

注

移行パッケージは、移行に必要な Sophos Central のエージェントインストーラおよびその他のファイルを含みます。

コンピュータの移行で Sophos Central Migration Tool を使用するたびに、デフォルトのローカル Sophos Update Manager シェアの中にある「CloudMigrationPackage」フォルダに移行パッケージが作成されます。例:

```
¥¥MySecServer¥SophosUpdate¥CloudMigrationPackage
```

Sophos Migration Agent を使用して、移行パッケージを展開し、Sophos Update Manager のリモートインスタンスで管理されている場所を更新できます。

インストールとアップデート

Sophos Migration Agent は、SUM がインストールされているすべてのサーバーで使用できます。

Sophos Migration Agent は、%programfiles(x86)%¥Sophos¥MigrationAgent (64ビット)、または %programfiles¥Sophos¥MigrationAgent (32ビット) のフォルダにあります。SUM 自己更新プロセスの一部としてインストールおよび更新されます。

必要な権限

Sophos Migration Agent は、ローカル管理者権限とユーザー偽装権限のあるアカウントとして実行が必要となります。

ユーザーアカウント制御 (UAC) がオンで、エージェントを対話型で実行する場合は、コマンドプロンプトを「**管理者として実行**」で開き、そこからエージェントを実行します。

コマンドライン パラメータ

```
SophosMigrationAgent [-p[ackagepath] <path>] [-a[ction] <action_name>] [-p[ackagepath] <path>] [-d[ebug]] [-t[raceoutput] <trace_method>] [-c[idpath] <path>] [-h[elp]]
```

-a 実行するアクションを設定。これは、「展開」(デフォルト) または「クリーンアップ」になります。展開により、Sophos Update Manager で更新されたすべての CID (Central Installation Directory) の中にパッケージが配置されます。クリーンアップがパッケージを削除します。

-p 展開の必要があるパッケージのルートフォルダへパス (UNC パス、またはローカルパス) を指定できます。パスには、英語のエンコーディングにマッピングできない Unicode 文字を含めることはできません。

-d トレースの詳細をデバッグレベルに設定します。対話型モードで実行する場合は、常にこのパラメータを使用することを推奨します。

-t トレースの出力に対する対象を選択できます: ファイル、コンソール、すべて、なし。デフォルトでは、トレースの出力はコンソールおよびトレースファイルの両方が対象です。

-c 展開が 1つの CID に制限されます。パスには、英語のエンコーディングにマッピングできない Unicode 文字を含めることはできません。

-h パラメータと使用方法の簡単な説明を出力します。

パッケージの展開

パッケージの展開がデフォルトのアクションです。

移行パッケージがダウンロードされ、ローカルにある Sophos Update Manager 構成ファイルが読み取られ、Sophos Update Manager により更新されたすべての CID の場所にパッケージが展開されます。

展開する必要があるパッケージのルートフォルダへのパス (UNC パスまたはローカルパスのいずれか) を指定する必要があります。例:

```
"%programfiles(x86)%¥Sophos¥MigrationAgent¥SophosMigrationAgent.exe" -p "¥¥MySecServer¥SophosUpdate¥CloudMigrationPackage"
```

```
SophosMigrationAgent.exe -packagepath "c:¥LocalStorage¥MigrationPackage" -a deploy
```

```
SophosMigrationAgent.exe -p "¥¥SomeServer¥SomeShare¥SomeFolder¥MigrationPackage" -action deploy
```

注

UNC パスへのアクセスが制限されている場合は、リモートにある Sophos Update Manager のエージェントが他のサーバーからパッケージを取得できません。リモートにある Sophos Update Manager の新しいフォルダに CloudMigrationPackage の内容をコピーし、新しいローカルパスで -p を使用します。

注

パスには、英語のエンコーディングにマッピングできない Unicode 文字を含めることはできません。

操作の結果は、ロールアウト番号とともにレジストリに保存されます。

注

ロールアウト番号は、パッケージが更新されるたびに増加します。古い番号の移行パッケージが使用されていないことを確認するために、移行中に番号がチェックされます。

-c パラメータを使用して、ローカルの Sophos Update Manager によって更新された CID のうちの 1つに展開を制限できます。例:

```
SophosMigrationAgent.exe -p "¥¥SomeShare¥SomeFolder¥MigrationPackage" -c ¥¥SomeOtherServer¥SomeFolder¥CIDs¥S001
```

パスは、Sophos Update Manager の設定ファイルの CID パスの 1つと完全に一致する必要があります。設定ファイルに保存されているパスを確認するには、次の手順を実行します。

- テキストエディタを使用して %programfiles(x86)%¥Sophos¥Update Manager¥config.xml (64ビット)、または %programfiles%¥Sophos¥Update Manager¥config.xml (32ビット) を開きます。
- XML エlementタグ <NewCidDir> を検索します。

注

Sophos Update Manager のデフォルト共有フォルダの中にある CID は、UNC パスとしてではなく、ローカルファイルパスとして表示されます。例: <NewCidDir>C:¥ProgramData¥Sophos¥Update Manager¥Update Manager¥CIDs¥S001</NewCidDir>

注

パスには、英語のエンコーディングにマッピングできない Unicode 文字を含めることはできません。

アクションの結果

ローカルの Sophos Update Manager で管理されているすべての CID へ問題なくパッケージが展開される場合は、操作は成功です。

操作が正常に完了した場合は、ソースパッケージのコンテンツがより高いロールアウト番号で更新されない限り Sophos Migration Agent は展開をスキップします。

最後に正常に展開された後に新たに共有や CID が追加された場合は、Sophos Central Migration Tool のメニューから「**Actions > Refresh Migration Packages**」(アクション - 移行パッケージの更新) を使用し、より高いロールアウト番号で再度パッケージを作成することを推奨します。次に Sophos Migration Agent を実行し、新しい更新場所へ展開します。

1つまたは複数の CID への展開に失敗した場合は、操作に失敗した旨が報告されます。エラーコードおよびパッケージロールアウト番号は、コンピュータの説明文字列にプレフィックスとして追加され、Sophos Enterprise Console へ報告されます。

ログファイル

ログファイルは、こちらにあります。%ProgramData%¥Sophos¥MigrationAgent¥Logs¥MigrationAgent.log

8 サポートへのお問い合わせ

ソフォスのサポートへは、以下の方法でお問い合わせいただけます。

- ユーザー コミュニティ サイト「Sophos Community」(英語) (community.sophos.com/) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 www.sophos.com/ja-jp/support.aspx

9 利用条件

Copyright © 2020 Sophos Limited. All rights reserved. この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos、Sophos Anti-Virus、および SafeGuard は、Sophos Limited、Sophos Group、および Utimaco Safeware AG の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。